

2019年3月1日

目次

| | | |
|---------------|--------------------|----------|
| ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報 | 上昇続く | p. 2-3 |
| ■ バター情報 | ニュージーランド産 価格上昇 | p. 3-4 |
| ■ カゼイン情報 | 潮目変わる | p. 4 |
| ■ チーズ情報 | 愛 Carbery 社 新工場建設へ | p. 5-6 |
| ■ ホエイ情報 | 買い控え傾向 | p. 6 |
| ■ 乳糖情報 | 概ね堅調 | p. 7-8 |
| ■ 国内情報 | 生乳生産量減に歯止めがかかる期待 | p. 8-9 |
| ■ 主要生産国の現行乳価 | | p. 10 |
| ■ オセアニア情報 | 乳価ステップアップ | p. 10-12 |
| ■ 欧州情報 | オーガニック製品の消費者意識調査 | p. 12 |
| ■ 米国駐在員情報 | 大寒波、ワシントン州襲う | p. 12-14 |
| ■ 中国情報 | 乳製品輸入量 | p. 14 |
| ■ 出典 | | p. 15 |

■ 粉乳情報

■ 脱脂粉乳 上昇続く

欧州

欧州産脱脂粉乳の相場は先月に引き続き上昇している。一方、2月末時点で大半の需要者は自身の第1四半期及び第2四半期の一部の必要量を確保したことから、取引の活発さが先月比べ落ち着いてきた印象を受ける。

相場上昇の一因ともなっている政府介入在庫の放出入札は、2月で全て在庫が一掃されるものと囁かれていたが、結果的に1,383MTを残すこととなった。需要が落ち着いてきたことに加え、落札最低価格もEUR1,631/mtと先月から更に上昇したことが要因と考えられる。しかし数十万トン残っていた時と比べれば、介入在庫残は掃けたと考えてもいい数量であり、市場に大きな影響を与えることは考えにくい。今後はサプライヤーの生産計画や中国を始めとする需要者の動きにより注視することが重要と考える。なお、次回の放出入札は3月21日を予定。

欧州産全粉乳価格は先月から若干上昇。域内消費が殆どで、価格も引き続きオセアニア産と比較すると高い為、域外需要者の関心も薄く、活発な取引は確認できない。

オセアニア

オセアニア産の脱脂粉乳は先月に引き続き上昇している。毎月2週間に一度開催されるGDTにおいて、直近2月19日の結果はUSD2,580/mtとなり、今年の1月初旬の結果(USD2,201/mt)と比較すると17.2%上昇している。中国からの需要は勿論、豪州では生乳生産のピークである10-11月が天候不良の為に生産が不調、ここに来て供給に影響している印象を受ける。オセアニアではこれから閑乳期に突入していくことから、供給に更にタイトさが出てくる可能性が考えられる。

オセアニア産全粉乳も引き続き上昇傾向。豪州に比べニュージーランドの方に供給力があるものの、需要が集中している為にサプライヤーの中には第2四半期積みまで殆ど販売し終えた者も出てきている。

最新のGDTの結果は下記の通り。

(2019年2月19日開催、同年2月6日比較)

脱脂粉乳: USD 2,580/mt FAS (船側渡し価格)、+1.8%

全粉乳 : USD 3,022/mt FAS (船側渡し価格)、-0.2%

米国

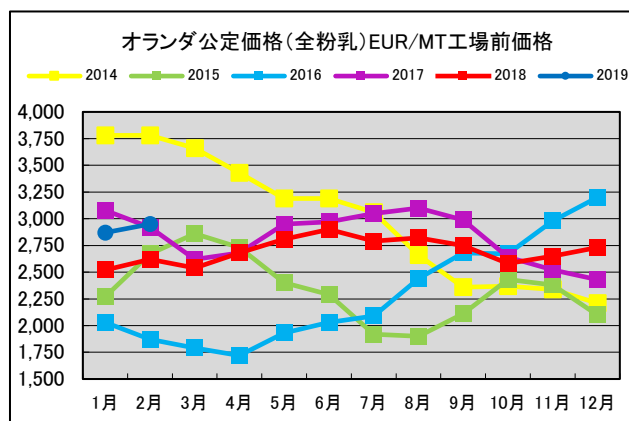
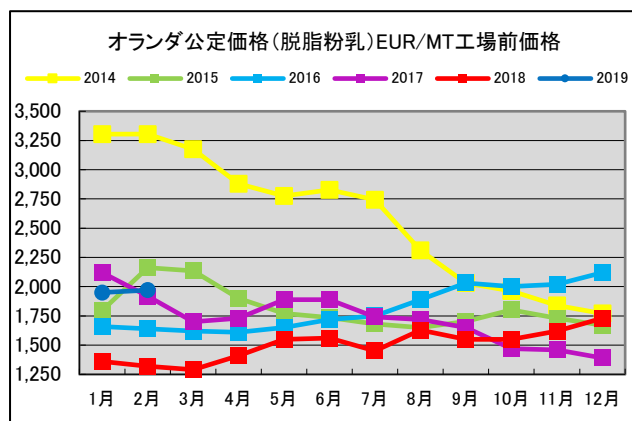
米国のNFDM*の価格もじりじりと上昇。欧州産の価格と拮抗する形で推移している。今年に入ってから、他の二地域と同様の値動きが確認できる。(その他、生乳生産量推移等は米国駐在員情報を参照)

*NFDM: Non Fat Dry Milk (たんぱく非調整脱脂粉乳)

今後の展望

脱脂粉乳の価格は引き続き上昇傾向だ。欧州では政府介入在庫がほぼなくなり、例年に比べ中国からの引き合いが増えていること、オセアニアでは乳シーズンが終盤に近付き供給量が減ってくることを考えると、今後も下落することは考えにくい。サプライヤーからも長期に渡り続いていた低価格帯を少しでも上げたいという意欲を感じる。

オセアニアの供給が限定的になる6~8月積みは他地域に需要が集中する可能性もあることから、買い付けのタイミングに注意したい。全粉乳は価格・供給面でもニュージーランドが突出していることから、こちらについても早めの確保が肝要と考える。



(現在の粉乳取引価格)

| | | |
|------------------------------------|---|--------------------------------------|
| EU(欧州連合)産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,500 ~ 2,800 /MT CFR ASIAN PORT |
| EU産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 3,450 ~ 4,000/MT CFR ASIAN PORT |
| オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,600 ~ 2,900 /MT CFR ASIAN PORT |
| オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 3,150 ~ 3,550 /MT CFR ASIAN PORT |
| 米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE) | : | USD 2,500 ~ 2,800 /MT CFR ASIAN PORT |

<加藤・清水>

■ バター情報

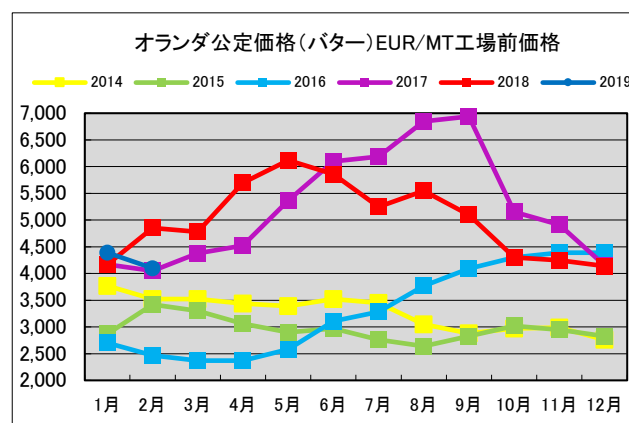
■ ニュージーランド産バター価格上昇も依然価格競争力あり

欧州

ドイツとオランダのバター公定価格は2月の後半で下がっているものの、実勢価格は1月と変わらず、高値圏に張り付いている。需要は依然として強い一方で、供給側では予想していたよりも生産が鈍い模様。これから訪れる春のピークシーズンまでの動向に注目していきたい。

欧州の2018年1~12月のバター生産量は215万7,000トンで前年比+0.2%とほぼ前年並みであった。

一方で、バターとバターオイルの輸出量は前年比-8%の16万2,000トンとなっていることから、域内需要が強まっていることが窺える。



オセアニア

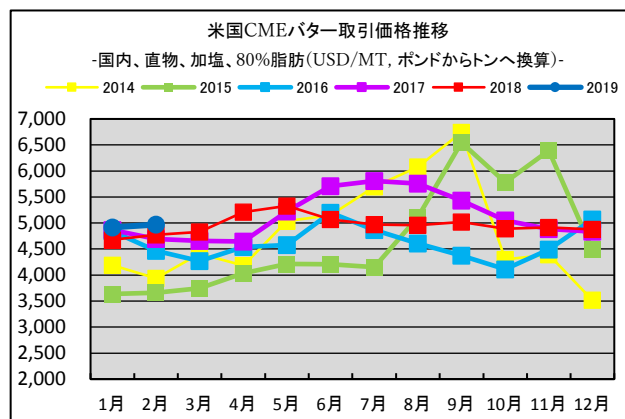
2月に入ってもなお、GDTオークションのバターとAMF平均落札価格は上昇し続けている。1回目(2019年2月6日)の平均落札価格はバターがUSD4,445/MT FAS(船側渡し)と前回(2019年1月15日)比+4.3%、AMFはUSD5,579/MT FASと前回比+5.4%となった。2回目(2019年2月19日)の平均落札価格はバターがUSD4,495/MT FASで前回比+1.1%、AMFはUSD5,620/MT FASと前回比+0.7%と、僅かではあるが共に続伸した。

2018年1~12月の豪州のバター・バターオイル輸出量は1万6,000トンで前年比+3%となった。対して輸入量は前年同時期比+18%の約4万トンと輸入量が輸出量を上回り、豪州はもはや輸入国と化している。

米国

2018年1月から11月までのバター生産量はおよそ77万7,000トンで前年同時期比+2.2%となっているが、11月単月の生産量では-2.7%と前年を下回っている。

2018年1月から11月までのバター輸出量はおよそ4万9,000トンで前年同時期比+65%と大幅増となっている。一方で輸入量も増加しており、2018年は2017年と比べ+32%増、およそ5万トンのバターを輸入した。



2019年2月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.13)

| | |
|--------------------|--------------------------------------|
| EU(欧州連合)産バター価格 | USD5,600~USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS |
| ニュージーランド産バター価格 | USD4,700~USD5,000/MT CFR ASIAN PORTS |
| 豪州産バター価格 | USD5,100~USD5,600/MT CFR ASIAN PORTS |
| 米国产バター(無塩 82%脂肪)価格 | USD4,900~USD5,400/MT CFR ASIAN PORTS |

<小瀬村>

■ カゼイン情報

■ 潮目が変わり相場上向き

カゼイン相場はこれまでの横ばいの状況から、上昇に転じている。

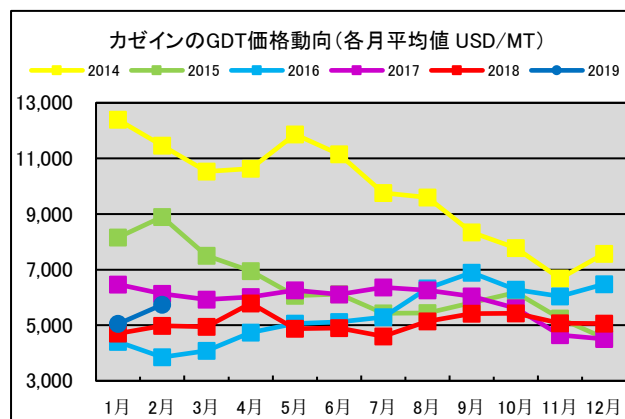
供給面では、カゼインの主要産地の一つであるニュージーランド(NZ)が、好天により牧草の生育も良好、結果1月の生乳生産量は昨年対比7.7%増と好調。しかしながら、カゼインの生産量は優先的に生産される全粉乳の影響で増加には至らなかった。もう一つの主要産地である欧州は、冬季の集乳量減によりカゼイン生産に増加は見られなかった。

需要面をみると、大きな引き合いもなく比較的穏やかな状況であったが、ここきて脱脂粉乳相場の上昇による影響から、脱脂粉乳相場に連動する形でカゼイン相場も上昇した。

生乳生産のピークを過ぎた NZ では、今後生乳生産量・カゼイン生産量ともに徐々に低下することが見込まれる。加え、直近のNZの雨不足による牧草の生育不調が、生乳生産に影を落とし始めている。欧州については春に向け生乳生産量が伸び始める時期であり、急激な供給不足は考えにくいものの、脱脂粉乳相場が上昇する中でカゼイン生産の大幅な伸びは期待できず、今後も相場は堅調と思われる。

レンネットカゼインの GDT 過去3カ月の落札価格

| 入札日 | カゼイン(単位:MT) |
|-------------|-------------|
| 2018年12月4日 | USD5,167 |
| 2018年12月18日 | USD5,056 |
| 2019年1月2日 | USD5,123 |
| 2019年1月15日 | USD5,047 |
| 2019年2月6日 | USD5,596 |
| 2019年2月19日 | USD5,740 |



<柴崎>

■ チーズ情報

■ 米国CWTによるチーズ輸出量

2018年にCWT(輸出助成金)を受けて輸出された米国産乳製品は計59,645トンで、その内32,885トンがアメリカンタイプのチーズであった。2019年1月には昨年同月比63%増の6,010トン、計103件分がCWTの付与を受けて輸出された。

CWT(Co-ops Working Together、酪農協共同基金)は、米国の全国生産者連盟により2003年に設立された酪農協のみが加盟できるシステム。加盟酪農家からの拠出金を原資に、酪農協である乳業メーカーに対して輸出助成金の付与が行われる。チーズのCWT対象品目はアメリカンタイプチーズ(チェダー、コルビー、モンテレージャック)及びゴーダに限られる。

■ アイルランドCarbery社、チーズ新工場計画を発表

アイルランドのCarbery社は、国内にチーズ工場を新設すると発表した。2020年初旬に竣工予定で、新工場の生乳処理量は年間約140万トン規模となる。総投資額は7,800万ユーロ(約98億円)に上り、チーズ単一工場としては欧州最大規模となる見込み。新工場ではモザレラ等のチーズを製造すると発表されており、伝統的に主力品目であったチェダー以外にも製品多角化を図る狙い。

■ 欧州産チーズの主要輸出入先と数量

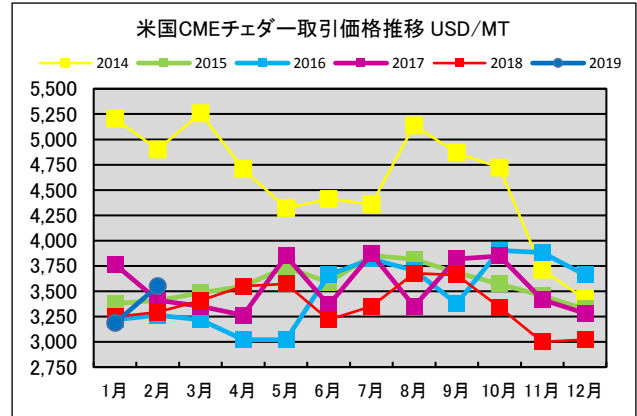
Eurostatによると、2018年のEU産チーズの主要輸出入先と数量は以下の通り。特に目立ったのがカナダで、2017年9月に発効したEUカナダ包括的経済貿易協定(CETA)におけるEU産チーズへの無税関割枠による影響が大きい。この無税枠は6年間で最終的に1万8,500トンまで拡大され、今後もEU産チーズのカナダ向け輸出増大が期待される。

| | | 単位:トン | 前年比 |
|----|----------|---------|------|
| 輸出 | 総輸出量 | 832,700 | - |
| | 米国 | 133,500 | -5% |
| | 日本 | 106,700 | +13% |
| | スイス | 61,600 | +2% |
| | 韓国 | 37,400 | -17% |
| | サウジアラビア | 34,600 | -14% |
| | カナダ | 20,200 | +31% |
| 輸入 | 総輸入量 | 59,000 | -1% |
| | スイス | 51,800 | -1% |
| | ノルウェー | 2,100 | +10% |
| | ニュージーランド | 1,200 | -41% |
| | セルビア | 1,200 | +16% |
| | アイスランド | 600 | +34% |
| | 米国 | 600 | +78% |

米国CME相場

2019年2月のCMEブロックチェダースポット相場は、月初は軟調に推移していたが後半にかけて上昇した。26日時点でUSD3,550/MT(現地工場出し価格)であり、前月末からUSD350/MT以上の上昇となった。

(為替レート EUR=¥126.00を使用)

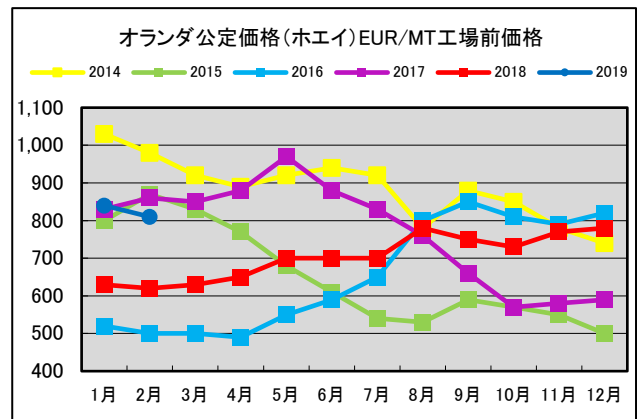


<近藤>

ホエイ情報

ホエイパウダー

米国産ホエイパウダーの相場は上昇基調が一転、若干の弱含みで推移している。前月号の通り、米中貿易戦争の影響で中国向けホエイパウダー輸出量は大幅に減少した為、米国内製造者はホエイパウダーの生産量を減らし、付加価値のあるWPC34やWPIの製造に注力。そのためホエイパウダー相場は一旦上昇した。しかしこの相場上昇局面を受け、市場関係者の多くは買い控えの姿勢となったため、製造者のホエイパウダー在庫が積み上がり、一部の製造者は価格を引き下げる方針となっている。



2019年2月24日、米国は中国製品に対する関税引き上げを延長すると発表。米国乳製品市場の不透明感はまだまだ長引きそうである。

米国産ホエイパウダーの2018年1月～11月輸出量は、前年同期比6.0%増の20万5,525トン。同時期の国別の輸出量は、中国向けが約7万5,409トン(前年同月比13%減)、ベトナム向けが約1万4,891トン(同比127%増)、フィリピン向けが約1万4,845トン(同比21%増)、日本向けが約1万4,528トン(同比31%増)、メキシコ向けが約1万3,892トン(同比2%増)であった。

欧州産ホエイパウダー相場は引き続き上昇トレンド。2018年12月の欧州生乳生産量は前年同月比0.9%減、チーズ生産量も同年同月比0.9%減、乳清(ホエイ液)の確保が難しくホエイパウダーの生産量は思うように伸びていない様子。また、中国向け欧州産ホエイパウダーの需要は、引き続き強く、更なる相場上昇の材料となろう。

WPC34

NFDM/SMP相場の上昇に伴い、WPC34相場も堅調に推移している。生産量は安定しており、在庫も適正在庫を保っている状況。育児粉乳向け等の厳しい規格品の供給は依然としてタイトであり、高値で取引されている。

<高野>

■ 乳糖情報

■ 欧州、米国タイトな状況から相場は堅調

欧州

欧州乳糖相場は、引き続き堅調に推移している。12月の生乳生産量は、昨年同月比0.8%減で、脱脂粉乳+バターが生産量が減少したため、チーズ生産量は0.1%増とわずかに増加した。乳糖生産量は11月まで伸び悩んでいたが、ようやく増加の兆しが見え始めている。

需要面では、米中貿易摩擦の影響で、一部の需要者は米国産から欧州産に切り替え始めており、引き合いは強い。冬場の製菓需要は落ち着いてきたが、域内在庫は依然タイトで第2四半期のオファーを満足に出せないサプライヤーもいる模様。生産量は微増も需要はそれを上回っており相場は強含んだ。

今後については、季節要因により生産量が増加する事が予想されるが、貿易摩擦収束の目途が立っていない事から、欧州産乳糖への一部シフトは続き高い需要が見込まれる。また、脱脂粉乳の介入在庫は2月に3,067トンまで減少し相場が上がり始めているため、生産量は増加し蛋白調整用途需要の高まりも予想される。

この先米国産相場が下がり始めた場合、欧州産も合わせて下がる事が予想されるが、底堅い需要があるため下げ幅は限定的と思われる。

米国

米国からの乳糖輸出量累計(2018年1-9月)

| | |
|-------------|------------|
| 1. 中国 | 76,892 トン |
| 2. メキシコ | 34,442 トン |
| 3. 日本 | 34,189 トン |
| 4. ニュージーランド | 33,061 トン |
| 5. インド | 14,887 トン |
| 6. ベトナム | 14,705 トン |
| 7. 韓国 | 13,080 トン |
| 輸出量総計 | 309,965 トン |

| 国別乳糖輸入量:1月時点での累計(単位/トン) | | | |
|-------------------------|-------|-------|------|
| | 2018 | 2019 | (%) |
| オランダ | 673 | 385 | -43 |
| フランス | 111 | 134 | 21 |
| ドイツ | 527 | 1,290 | 145 |
| カナダ | 153 | 116 | -24 |
| 米国 | 4,208 | 4,126 | -1.9 |
| 豪州 | 0 | 0 | - |
| ニュージーランド | 328 | 239 | -27 |
| その他 | 126 | 123 | 4.7 |

米国乳糖相場は、細かいメッシュサイズのもの引き続き堅調に推移しているが、一部飼料向け等の粗いメッシュサイズは1月にピークを迎え、2月に入り値を下げた。生乳生産量は12月に入っても好調を維持しており、チーズ生産量も順調に推移している。WPC34よりも利幅の大きいWPC80、WPIに生産がシフトしているため、乳糖生産量も増加した。需要面では、旺盛な国内需要に加えて、欧州産在庫がタイトな状況から、中国やニュージーランドからの育児粉乳向け等の細かいメッシュサイズの引き合いが強い。生産増により在庫は徐々に積み上がってきているものの、適正在庫回復まではもう少し時間がかかる模様。

今後については、中国との貿易摩擦の行方が不透明なためEU産への切り替えが考えられるが、欧州産がタイトな状況から、切り替わる需要は一部で限定的と思われる。相場高と季節要因により生産量は増加する事が予想されるが、食用の粉碎乳糖については依然引き合いは強く、在庫が積み上がるまで時間がかかるため、相場が反転するまでもう少し時間がかかりそうだ。飼料用等の未粉碎乳糖については、適正在庫まで積み上がっており、第2四半期以降徐々に下がる事が予想される。

米国の乳糖生産量と在庫量(2018年10月)

| | | | |
|-------|----------|------------|-----------|
| 乳糖生産量 | 43,263トン | 前年比 8.3%減 | 前月比 3.2%減 |
| 月末在庫 | 41,599トン | 前年比 34.3%減 | 前月比 9.8%増 |

※米国産乳糖輸出量、生産量、在庫量については、米国農務省関係各所のシャットダウンの為、更新されておられません。先月と同じ情報を掲載いたします。

<真野>

国内情報

全国生乳生産量 5ヶ月連続で減少

生乳生産

農林水産省発表の2019年1月の全国生乳生産量は61万5,930トン。前年同月比0.9%の減となり、5ヶ月連続で前年割れとなった。地域別では北海道が33万4,675トンで同0.2%の減、都府県は28万2,555トンで同1.7%の減となった。

2月21日に2019年度乳製品向けの生乳入札が行われ、3万トン全量が落札された。平均落札価格は税抜き¥109.97/kgと過去最高を更新。各乳業メーカーが生乳確保に動いた結果、価格は高騰した。2019年度乳製品向けの入札は残り2回、各入札の対象数量は2万トン。次回は3月7日に行われ、全ての入札が終了次第、プール乳価への影響がはっきりしてくるであろう。

業界では、全国が生乳生産量は、3年後の2021年度には最大35万トン増加する予測が出ている。2003年より減少が続いていた乳牛頭数だが、2018年は132万8,000頭で前年比0.4%増となった。また、2歳未満の後継牛頭数は2017年から増加しており、2018年は42万1,000頭で前年比2.9%の増となっている。また、これからそうした牛が分娩時期を迎えることから、生乳生産量が増加する可能性が高く、年々減産している生乳生産量に歯止めがかかることに期待したい。

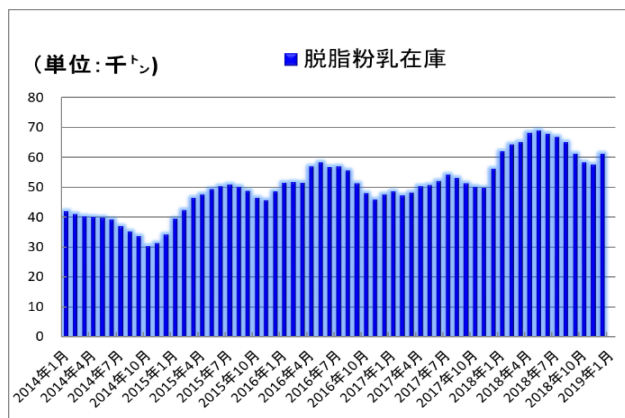
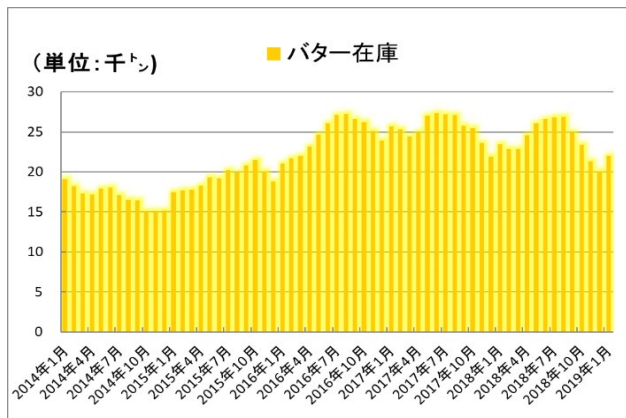
バター

農林水産省が発表した2019年1月のバター生産量は6,110トンで前年同月比3.3%増、在庫量は22,022トンで同6.5%減となった。農畜産業振興機構(ALIC)は、2月28日に3,000トンのSBS入札を実施。応札数量は6,258.6トンで競争倍率は2.09倍。前回入札(4.00倍)から落ち着いてきている。売渡結果の落札平均価格は1,008,752円/トン。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した2019年1月の脱脂粉乳生産量は10,984トン。前年同月比4.2%減となったが、在庫量は6万3,863トンで前年同月比2.9%増と、引き続き高い在庫水準である。2月21日に6,000トンのSBS入札が実施され、落札数量は1,221.4トン。落札率は20.3%に留まった。

国内の在庫が潤沢であることに加え、TPP11や日欧EPAにより低関税で乳製品を輸入出来るようになった為、今後の脱脂粉乳ならびにバターのALIC入札は更に落ち着いてくるのではないかと予想する。



2018(平成 30)年度 単月生乳生産量 (単位:千トン)

| | 生乳生産量 | 牛乳等向け | | 乳製品向け | その他 |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| | | | 内業務用 | | |
| 1月 | 616 | 326 | 28 | 286 | 3.9 |
| 前年同月比 | 99.1% | 100.5% | 105.5% | 97.7% | 96.5% |

2018(平成 30)年度、バター供需予想(単位:トン)

| | 生産量 | 前年比 | 消費量 | 前年比 | 在庫量 | 前年比 | 月数 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 16,613 | 99.1% | 18,740 | 120.0% | 26,551 | 97.2% | 4.1 |
| 第2四半期 | 12,736 | 101.1% | 17,462 | 113.6% | 25,025 | 92.5% | 3.9 |
| 第3四半期 | 12,967 | 96.4% | 17,892 | 65.9% | 23,300 | 106.2% | 3.6 |
| 第4四半期 | 17,310 | 100.2% | 21,788 | 115.0% | 22,022 | 86.4% | 3.4 |
| 合計 | 59,626 | 99.2% | 75,882 | 98.4% | 22,022 | 86.4% | 3.4 |

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成 30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

| | 生産量 | 前年比 | 消費量 | 前年比 | 在庫量 | 前年比 | 月数 |
|-------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|-----|
| 第1四半期 | 32,103 | 98.3% | 22,272 | 60.8% | 67,847 | 126.3% | 5.5 |
| 第2四半期 | 25,509 | 100.9% | 39,904 | 111.2% | 61,352 | 115.6% | 5.0 |
| 第3四半期 | 28,987 | 95.8% | 40,639 | 132.1% | 57,600 | 102.7% | 4.6 |
| 第4四半期 | 32,684 | 97.8% | 34,321 | 75.6% | 63,863 | 127.4% | 5.2 |
| 合計 | 119,283 | 98.1% | 137,136 | 92.2% | 63,863 | 127.4% | 5.2 |

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<深澤>

■ 主要生産国の現行乳価

| | 円換算乳価※1 | 適用期間 | 直近の乳価 |
|----------|----------------|-----------|------------------------------------|
| 日本 | ¥99.66/ℓ | 2018年12月 | ¥96.67/kg※2 |
| ドイツ | ¥47.38/ℓ | 2018年12月 | EUR36.47/100kg |
| オランダ | ¥48.39/ℓ | 2018年12月 | EUR37.25/100kg |
| アイルランド | ¥50.72/ℓ | 2018年11月 | EUR39.04/100kg |
| 米国 | ¥42.89/ℓ | 2018年11月 | USD17.00/100ポンド (100ポンド=45.3592kg) |
| 豪州 | ¥36.59～36.96/ℓ | 2018/19年度 | AUD5.99～6.05/100kg MS(乳固形kgあたり)※3 |
| ニュージーランド | ¥37.02～38.79/ℓ | 2018/19年度 | NZD6.30～6.60/100kg MS(乳固形kgあたり) |

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥126.00 USD=¥111.00 AUD=¥79.00 NZD=¥76.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 HP EU:European Commission HP 米国:CLAL HP 豪州:当社調べ NZ:Fonterra HP

■ オセアニア情報

乳業会社 乳価ステップアップ

豪州の生乳生産量は昨年対比大きく減少して推移している。Dairy Australia が12月までの生乳生産量を発表したが昨年対比5.1%減少。今シーズンの終了時(2019年6月)の最終着地予想を845～865万トンと大きく下方修正した。豪州の生乳生産量が900万トンを割り込むのは20年ぶりの事となる。豪州は深刻な干ばつに見舞われており、穀物や牧草の生育に大きく影響が出ている。酪農家は牛に与える配合飼料の量を増加させる必要があり、高騰している配合飼料を購入せざるを得ない状況で、結果的に酪農家の生産コストを圧迫する事になる。

特にビクトリア(VIC)州北部の生乳生産量の落ち込みは大きく、昨年対比14.7%減少にて推移している。VIC州北部は、夏は特に暑く水が少ない傾向にある地域なので、厳しい干ばつの影響を大きく受けている。またVIC州北部には Saputo Dairy Australia 社 Cobram 工場、Fonterra 社 Stanhope 工場、Bega 社 Tatura 工場など主要乳業会社の工場がひしめき合っており、限られた生乳供給の中で獲得競争が激化している。各主要乳業会社は酪農家を確保する為に酪農家に支払う乳価をステップアップする事を発表している。Bega社は1月末に乳価をAUD5.99(約473円)/kg乳固形に上げることを発表した(AUD0.14(約11円)/kg乳固形アップ)。更に2年契約の酪農家には追加にてAUD0.25(約20円)/kg乳固形、3年契約の酪農家にはAUD0.5(約40円)/kg乳固形を支払う事を発表した。それを受けてSDA社もAUD6.05(約478円)/kg乳固形にステップアップを発表した(AUD0.10(約8円)/kg乳固形アップ)。Fonterra社は2月に入り、今シーズンの最終乳価はAUD6.05(約478円)/kg乳固形に上げる事を発表した(AUD0.07(約6円)/kg乳固形アップ)。またVIC州北部の大口酪農家に対してはAUD6.71(約530円)/kg乳固形を提示している事を認めている。干ばつの状況が厳しい事、乳牛の処分頭数の増加、廃業する酪農家、競争の激化が今シーズンの集乳量に大きく影響を及ぼしていると説明している。

各主要乳業会社の乳価一覧は下記の通り。各乳業会社も集乳量は大きく落ち込んでおり、各乳製品の生産量及び供給状況に影響が出てきている。各乳業会社は利益率の最も高い乳製品の製造に注力し、収益を上げて酪農家へ支払う乳価へ最大限還元という非常に厳しい状況が続いている。

SDA 社 AUD6.05(約 478 円)/kg乳固形
 Fonterra 社 AUD6.05(約 478 円)/kg乳固形
 Bega 社 AUD5.99(約 473 円)/kg乳固形
 (2年契約は AUD6.24(約 493 円)/kg乳固形、3年契約は AUD6.49(約 513 円)/kg乳固形)

-豪州ビクトリア州の降雨量 2019年2月21日現在 (mm)-

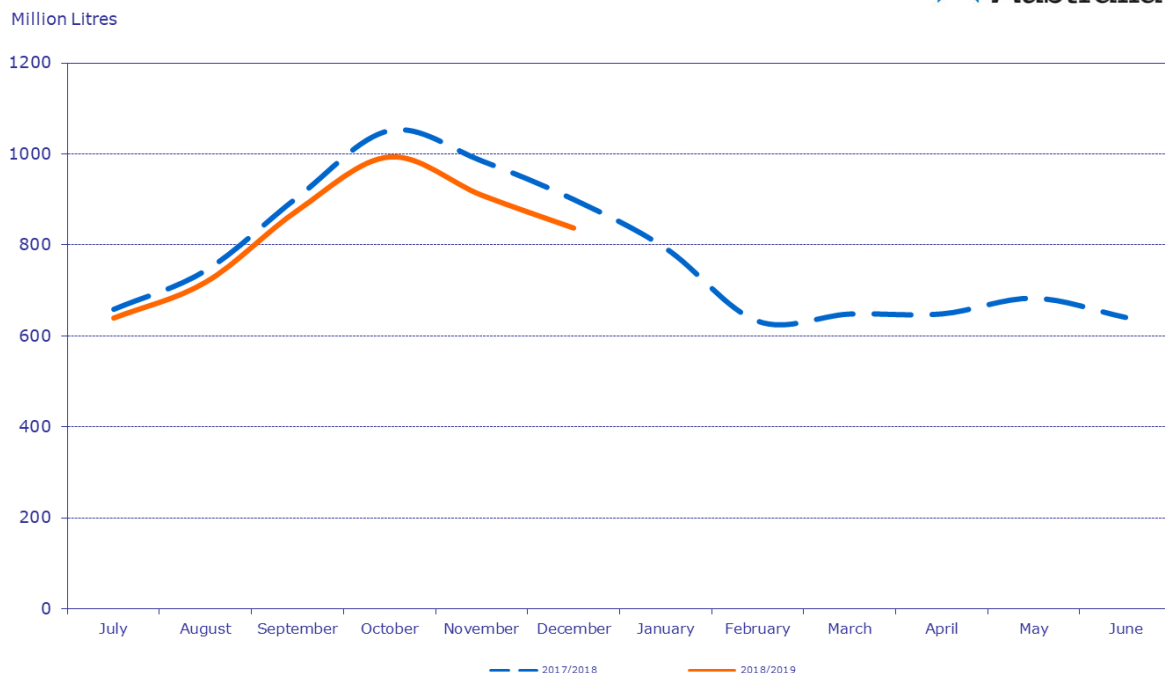
| | 2月降雨量 | 昨年同月降雨量 | 平年 | 平年比 |
|-----------------|-------|---------|------|--------|
| Tatura (北部) | 6.8 | 3.0 | 30.1 | -77.4% |
| Warmambool (西部) | 24.4 | 26.2 | 31.2 | -21.8% |
| Bairnsdale (東部) | 25.4 | 28.8 | 52.1 | -51.2% |
| Albury (北東部) | 27.6 | 23.4 | 46.0 | -40.0% |
| Melbourne | 18.6 | 1.6 | 45.1 | -58.8% |

-豪州生乳生産量-

単位: 百万リットル

| | 18年12月の生乳生産量 (前年同月比) | 18年7月～累計 (前年同時期比) |
|-------------------|----------------------|------------------------|
| NSW | 87.1 (-11.0%) | 554.4 (-9.6%) |
| Victoria | 534.1 (-8.8%) | 3,267.2 (-6.1%) |
| Queensland | 30.9 (-10.9%) | 196.4 (-10.0%) |
| South Australia | 45.9 (-1.0%) | 267.4 (+2.8%) |
| Western Australia | 32.4 (-1.4%) | 198.9 (-1.5%) |
| Tasmania | 107.1 (+5.0%) | 491.0 (+4.3%) |
| Australia | 837.5 (-6.9%) | 4,975.4 (-5.1%) |

Australian Milk Production - National Total
2017/18 & 2018/19



出典: Dairy Australia HP

- ビクトリア州の地域別生乳生産量 -

単位：百万リットル

| | 18年12月の生乳生産量 (前年同月比) | 18年7月～累計年 (前年同時期比) |
|-----------------|----------------------|------------------------|
| 東 部 | 200.4 (-3.0%) | 1,123.5 (-2.5%) |
| 北 部 | 142.9 (-22.6%) | 899.5 (-14.7%) |
| 西 部 | 190.9 (-1.9%) | 1,244.1 (-2.2%) |
| ビクトリア州全体 | 534.1 (-8.8%) | 3,267.2 (-6.1%) |

(為替レート AUD=¥79.00 を使用)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd. 松本>

■ 欧州情報

ドイツ 消費者のオーガニック製品に関する意識調査

ドイツの乳業メーカーAndechser Molkerei Scheitz社は3,201人のドイツ一般消費者に対してオーガニック製品に関する意識調査を行った。調査結果によるとオーガニック製品において最も重要なことは何かという質問に対して、全体の53%が動物愛護、48%が「GMOフリー」、47%が化学肥料の禁止と回答した。それ以外には天然資源を大切にすること(36%)、飼料(21%)、生物多様性と種の保護(20%)、農家への適切な対価の支払い(18%)、土壌改良(10%)、多品種栽培(6%)、リサイクル(6%)となっている。

オーガニック製品のどのような項目が購買意思に影響を与えるかという質問に対しては、77%の人が高品質・天然由来、66%の人が価格の妥当性としている。

消費者からの要望についても確認したところ、回答者の約80%が畜産の飼育状況について、また66%がオーガニック製品の価格構成について詳しく知りたいと回答している。

購買意思の決定要素としては品質と動物愛護(80%)、廃棄物を少なくする取組み(74%)、地元生産(72%)、企業の環境保全への取組み(72%)との回答が得られた一方、回答者の60%がオーガニック製品をもっと安くするべきだと考えており、適正価格だと考えるのは33%に留まった。

「オーガニック」ということが「グリサホート(除草剤の主成分)が使用されていない」、「天然由来原料以外は殆ど使用されていない」といったことを意味していることを知らない消費者が未だ多くいることも明らかになった。この結果を受け、Scheitz社はオーガニック製品の先駆者としてオーガニックについての啓蒙活動に取り組んでいくとしている。

<アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V. 吉田>

■ 米国駐在員情報

ワシントン州、2月の大寒波により大きな損失

2月初旬に襲った大寒波と降雪の影響がアメリカ北西部の酪農地帯にも及んでいる。

ワシントン州は2月9日の猛吹雪によって乳牛を失ったヤキマ渓谷地区の酪農生産者に対し、死んだ牛をオレゴン州にある処理場まで運搬し、適切に埋処分する為の補助金として10万ドル(約1,100万円)を交付することを決めた。

州政府関係者の話では今回の猛吹雪によって同地区の乳牛約1,800頭が死んだとされ、損失額は400万ドル相当とも言われている。また同州南部のサニーサイド地区においても約600頭の乳牛が死んで15軒以上の酪農生産者が影響を受けているとの報告もある。

2018年、米国の飲用乳売上低下

市販用にパック詰めされた牛乳の販売数量は長期に渡り減少を続けているが、2018年の販売数量は前年比約2.1%減となり、USDAが統計データの集計を始めた2000年1月以降では、過去最低であった2014年の約3%減に次ぐ大幅減となった。一方で、全脂乳やデザイナーミルクとも呼ばれる色物牛乳やたんぱく質強化牛乳、乳糖フリー牛乳、その他乳飲料のカテゴリーの販売数量は伸び続けている。

現在の一日当たりの牛乳販売数量は、2009年と比較すると約1万トン近くも落ち込んでおり、こうした状況下、2018年に前年比増へと転じた全脂乳は明るい材料となっている。一方、脱脂乳(スキムミルク)の販売数量は2000年以降最大の減少幅となる約9.8%減となった。

USDAのEconomic Research Service(ERS)の発表では、アメリカ国内における平均的かつ一般の市乳工場における年間生産量は、2009年から2016年にかけて約20.5%減少しているという。米国全体で牛乳の消費が減少を続けている事に加え、前述のデザイナーミルクに代表されるニッチ市場を狙った新規参入商品にシェアを奪われている事が原因である。

12月の生乳生産量

米国農務省(USDA)発表によると12月の主要23州の生乳生産量は777万8,400トンで前年同月比0.9%増となった。主要23州における12月の一頭当たりの平均搾乳量は約893キロで前年同月を約10キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来、12月単月の数字として過去最高となった。主要23州における12月の合計乳牛頭数は871万5,000頭と発表され、前年同月比2万1,000頭減、前月比3,000頭減となった。

12月の全米生乳生産量は824万2,400トンで前年同月比0.5%増となった。また一頭当たりの平均搾乳量は約882キロで前年同月比約9.5キロ増、合計乳牛頭数は935万1,000頭と発表され、前年同月比4万9,000頭減、前月比3,000頭減となった。

2018年12月主要州別生乳生産量(前年同月比)

| | | | |
|----------|-------------|-------|-------------|
| カルフォルニア州 | 1,554,950トン | +1.7% | (+25,424トン) |
| ウィスコンシン州 | 1,168,596トン | +1.4% | (+15,890トン) |
| ニューヨーク州 | 564,776トン | +2.1% | (+11,350トン) |
| アイダホ州 | 574,310トン | +4.9% | (+26,786トン) |
| テキサス州 | 489,866トン | +4.8% | (+22,246トン) |
| ミンガン州 | 422,674トン | -0.2% | (-908トン) |
| ペンシルバニア州 | 388,624トン | -6.0% | (-24,970トン) |
| ミネソタ州 | 378,182トン | +1.0% | (+3,632トン) |
| ニューメキシコ州 | 304,180トン | -2.8% | (-8,626トン) |
| ワシントン州 | 257,418トン | +4.8% | (+11,804トン) |

2018年11月米国産主要乳製品生産量

| | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|--------|-----|--------|
| バター | 66,119トン | 前年同月比 | -2.7% | 前月比 | +1.5% |
| チーズ | 491,064トン | 前年同月比 | +1.0% | 前月比 | -4.3% |
| (うちアメリカンチーズタイプ) | 191,951トン | 前年同月比 | +2.2% | 前月比 | -3.5% |
| (うちイタリアンチーズタイプ) | 210,794トン | 前年同月比 | +1.6% | 前月比 | -2.2% |
| NFDM(食用) | 59,244トン | 前年同月比 | -7.7% | 前月比 | +4.3% |
| SMP | 13,801トン | 前年同月比 | -26.9% | 前月比 | -18.9% |
| ホエイパウダー | 33,899トン | 前年同月比 | -8.6% | 前月比 | -14.1% |
| WPC | 17,883トン | 前年同月比 | -2.9% | 前月比 | -8.2% |
| 乳糖(食用、餌用) | 44,439トン | 前年同月比 | +13.7% | 前月比 | +14.1% |

2018年11月末米国産主要乳製品在庫量

| | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|--------|-----|--------|
| バター | 69,816トン | 前年同月比 | -3.4% | 前月比 | -33.4% |
| チーズ | 611,992トン | 前年同月比 | +7.2% | 前月比 | -1.6% |
| (うちアメリカンチーズタイプ) | 362,746トン | 前年同月比 | +8.9% | 前月比 | -1.5% |
| NFDM(食用) | 130,352トン | 前年同月比 | -9.4% | 前月比 | +13.9% |
| ホエイパウダー | 29,786トン | 前年同月比 | -34.6% | 前月比 | -11.1% |
| WPC | 27,412トン | 前年同月比 | -26.0% | 前月比 | +2.1% |
| 乳糖(食用、餌用) | 39,190トン | 前年同月比 | -39.7% | 前月比 | -3.9% |

2018年12月末バター、チーズ在庫量

| | | | | | |
|-----------------|-----------|-------|-------|-----|--------|
| バター | 81,416トン | 前年同月比 | +6.3% | 前月比 | +16.6% |
| チーズ | 610,131トン | 前年同月比 | +5.0% | 前月比 | -0.3% |
| (うちアメリカンチーズタイプ) | 362,946トン | 前年同月比 | +7.0% | 前月比 | +0.1% |

(為替レート USD=¥111.00 を使用)

<ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤、在ロサンゼルス 大野>

中国情報

2018年乳製品輸入量は前年対比軒並み増加

中国税関の情報によれば、2018年1月～12月の乳製品輸入量の累計は2017年比で軒並み増加となった。

2018年の乳製品輸入量

| 品目 | 輸入量(万トン) | 前年比(%) |
|----------|----------|--------|
| 全粉乳/脱脂粉乳 | 80.14 | 11.6 |
| ホエイパウダー | 55.72 | 5.21 |
| チーズ | 10.83 | 0.25 |
| バター | 11.33 | 23.72 |
| 練乳 | 2.75 | 7.51 |
| 乳児用調製粉乳 | 32.45 | 9.64 |

チーズの輸入量は速報値では2018年の輸入量は前年比0.3%減となっていたが、修正され最終的には0.25%増となっている。乳児用調製粉乳は初めて輸入量が30万トンを超え、前年同期比9.64%の増加となった。

中国の乳製品輸入量は増加傾向にはあるが、一方で2017年の増加率と2018年の増加率を比較すると成長が鈍化しているとも捉えられる。2017年の乳製品輸入量は2016年比16.2%増と前年比二桁増となっていたが、2018年の乳製品全体の輸入量は193万2,200トンで前年比9.64%増、前年対比二桁増には届かなかった。中国国内では消費者の国内酪農の品質に対する信頼は高くなってきているという報道もあり、今後の中国国内生産量の動向によっては、海外産乳製品の輸入数量が調整される局面も考えられる。

<在上海 Lacto Shanghai Co., Ltd. 今野>

■ 出典

経済日報
食品産業サイト
食品産業網
長三角乳業
《中国乳業》杂志 乳业资讯网
東方ネット
日刊酪農乳業速報
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
Australian Financial Review
Dairy Australia
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
Global Trade Information Service
IEG Vu Dairy
NZ Herald
Rice Dairy
Stuff.co.nz
USDA's Dairy Market News
USDEC Export Trade Data
Weeklytimes

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。

2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。

3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。

作成 : 株式会社ラクト・ジャパン
編集 : 乳製品情報編集部
問合せ先 : webmaster@lacto-japan.com